

## 定期報告(ウルグアイ内政・外交:2015年9月)

### 1 内政

#### (1) 液化天然ガス再気化事業

3日付主要各紙は、当国液化天然ガス再気化事業について大要次の通り報じた。

ア 液化天然ガス再気化事業を請け負う GNLS 社(GDF Suez と丸紅で構成)は、Gas Sayago 社に対し1億米ドルの保証金を支払って契約を解除することで合意。政府は事業継続の見込み。

イ 2日、コッセ工業エネルギー鉱業相が下院に出席、GNLS 社と GasSayago 社との契約解除について、GNLS社が契約不履行に係る責任と義務を認め、1億米ドルの保証金を支払うことで合意したため、最高の条件での契約解除となったと説明。また、政府は、新しい事業請負企業を選定すべく、目下公募入札のための準備を進めており、新しい請負企業との契約のもとで進められる液化天然ガス再気化事業にかかるコストは約8億米ドル、2017年の半ば頃には再気化ガスの生産を開始できるであろうと説明。

#### (2) バスケス大統領の支持低下とその背景

10日付当地週刊「ブスケダ」誌は、バスケス大統領の支持率低下及びその背景について大要次の通り報じた。

ア 政権発足から7カ月、バスケス大統領への支持が急速に低下している。6月末時点でのバスケス政権の支持率は48%であったが、最近の調査では40%を下回り、第一次政権時(2005～2010年)を含めこれまでで最低になった。

イ 最近の同大統領は、公立学校教職員との激しい対立、最高裁判所人事を巡る与党 FA(拡大戦線)の反対、TiSA 交渉参加への FA 及び複数の閣僚からの反対等に見舞われており、孤立を深めている。先月、公立学校教職員の長期ストライキに対し同大統領は、公教育サービスが規定通り提供されることが不可欠であるとする声明を発出し、労働権を実質的に制限しようとした。この声明に対して、識者、FAの活動家らから厳しい批判が寄せられた。更に、シャビエル上院議員(社会党)のFA総裁辞任、大統領への支援を表明していたムヒカ前大統領が外遊で忙しく不在がちであることなどの事態が生じている。

ウ 8日、FA事務局メンバーが同大統領と会談した。出席したパルディニャス社会党事務局長は、大統領・与党関係を再構築するのに役立ったと述べた。席上、FAはTiSA 交渉への参加に反対である旨決議したと告げられた大統領は、外務省に対し TiSA 交渉からの撤退を指示した。大統領の決定について、野党及び外務省は不服であるが、高く評価する識者もいる。

#### (3) 労働問題

22日夕刻、警察は、中央教育審議会(CODICEN)本部他政府関係機関が置かれ

ている建物(モンテビデオ県セントロ地区)を占拠していた複数の学生を強制排除した。学生は教育予算の増額を要求して18日から占拠を続けていた。内務省及び報道によれば、学生は特に抵抗せず建物から退去したが、建物の外で示威活動を行っていたタクシー労組(SUATT)組合員及び社会運動団体「記憶と正義」構成員らが警察ともみ合いになり、双方にけが人が出た。また、12人が逮捕された(いずれも成人)。

## 2 外交

### (1) バスケス大統領の2016年アジア訪問予定

主要各紙によれば、2016年におけるウルグアイの対アジア外交日程は次の通り。

- ア バスケス大統領が2016年第2四半期中に中国及びインドを歴訪する予定。先だってニン・ノボア外相が本年10月にインドを訪問、同行の企業家とともに対ウルグアイ投資に関するプレゼンテーションを行う。
- イ 外務省は、アジア担当職員の増員、在中国ウルグアイ公館の増設を予定している。
- ウ 中国は、乳製品の輸入に重点を置いた通商協定締結の意思をウルグアイに伝えている。2015年1～8月の期間中、中国への輸出は全体の19.1%を占め、第一の輸出先国となった。
- エ ニン・ノボア外相は、ウルグアイと同様の食肉・乳製品生産国であるオーストラリア及びニュージーランドが既に中国と自由貿易協定を締結していることを挙げ、中国との通商協定の重要性を強調。

### (2) バスケス大統領の第70回国連総会出席

26～29日、バスケス大統領が第70回国連総会出席のため米国を訪問した。

- ア 26日、潘基文(Ban Ki-moon)国連事務総長と会談。
- イ 27日、エルシーシ・エジプト大統領と会談。
- ウ 28日、アメリカス協会(Americas Society/Council of the Americas)本部にて表彰。また、国連平和維持活動サミットに出席し演説。
- エ 29日、総会一般討論において、国連創設70周年、ポスト2015年開発アジェンダ、難民問題、公衆衛生及びアルコール・タバコ・麻薬消費、癌との闘い、米・キューバ関係、コロンビア・ベネズエラ国境問題、コロンビアにおける和平対話について演説。

### (3) ウルグアイ・アルゼンチン外相会談

1日、ニン・ノボア外相とティメルマン・アルゼンチン外相がモンテビデオで会談を行った。両国外相会談は今回が3度目。外務省によれば、外相会談に続き高級実務者協議が行われ、河川の利用、国境地域の環境モニタリング、EU・メルコスールFTA交渉、コロンビア・ベネズエラ国境問題にUNASURが果たす役割について議論さ

れた。

(4) UNASUR議長国ウルグアイによるコロンビア・ベネズエラ関係正常化の仲介

21日にエクアドル・キトにて行われたコロンビア・ベネズエラ首脳会談に関し、同日、外務省は、バスケス大統領及びコレア・エクアドル大統領が調整役となったと指摘しつつ、ベネズエラ・コロンビア両首脳が、国際法を尊重し、二国間対話を強化することが重要であるという点で一致したことを祝福する旨のプレスリリースを発出した。外務省によれば、ウルグアイ及びエクアドルは引き続き本件二国間対話を調整する。

(5) TiSA 交渉からの脱退

バスケス大統領は、FAがTiSA交渉参加に反対する決議を採択したのを受けて、交渉からの脱退を決定した。10日、大統領は、TiSA 交渉からの脱退決定について、「サービス貿易に関して、地球規模で何らかの具体的な合意に至ることができるのか、個人的に疑問を持っている。交渉に参加している米国とEU の間に溝があり、現状、TiSA は存在していない。今後の動きを注視していきたい。」と述べた。また、ニン・ノボア外相が交渉参加に賛成の立場であることを明らかにした。

### 3 治安関係

(1) 7日付エル・パイ紙は、麻薬の密輸について大要次の通り報じた。

ア 警察は合成麻薬であるエクスタシー8キロ、末端価格にして120万米ドルを押収した。スペインから持ち込まれたと見られる。警察当局及び司法関係者は、スペインからウルグアイ・カラスコ国際空港を経由して南米南部に麻薬を密輸する事件が常態化していることを懸念している。犯人はフランス人とドミニカ人の2人である。

イ 2014年に政府が実施した「第6回家庭における麻薬の使用に関する調査」によると、ウルグアイ人の3.1%(約93,000人)は幻覚剤の使用経験があり、2.1%(約6万人)はアンフェタミン系薬物(エクスタシー、アンフェタミン、メタンフェタミン)の使用経験がある。また、そのうち約7千人がエクスタシーの使用経験があった。

(2) 議会が9月1日発表した五カ年計画の中に、交通警察の再編があげられている。国道警察を機動隊に合併する他、各県で様式が統一されていない運転免許証について、国家許認運転免許証の創設が予定されている。また、現在5年有効の旅券についても10年有効が導入される予定である。

### 4 その他

(1) 10日、国家統計院(INE)が、2014年度家計継続調査の分析結果報告書を公表した。同報告書「居住区域分化」の章によれば、モンテビデオ県の8つの市それぞれについて、家庭当たりの貧困度、1部屋当たりの人数及び高等教育進学者数の3つの要素が

ら成る居住区域分化指数(Índice de segregación residencial)を算出した結果、貧しく、1部屋当たりの人数が多く、また高等教育進学者数が少ない家庭はA市(県西部)及びF市(県東部)において最も多く認められるのに対し、このような家庭はB及びCH市(県南部)において最も少ない。また同報告書は、前回調査時(2006年)と比較してモンテビデオ県における居住区域分化指数は、貧困度及び1部屋当たりの人数については変化がなく、高等教育進学者数については悪化したと指摘し、この間の所得増による貧困及び不平等の低減が必ずしも居住区域分化の解消には結びついていないと述べている。

- (2)22日、ホセ・ヘルバシオ・アルティガス将軍(1764～1850)による「土地に関する布告」(Reglamento de tierras)発布から200周年を記念して、アルティガス将軍本拠地跡国立公園(パイサンドウ県)にて上下両院特別総会が開催され、センディック副大統領が出席した。センディック副大統領は、「政府が行っている、植民公社(Instituto Nacional de Colonización)の強化、中小規模農家支援、生産力強化、平等と正義のための取り組み等の政策の多くは、アルティガス将軍の「土地に関する布告」に着想を得たものである。アルティガスの理念を振り返り、将来世代のためにその理念を遺産として引き継いでいくことが重要である。」と挨拶した。

(了)